慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	地方経済振興策
Sub Title	
Author	堀切, 善兵衛
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1916
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.10, No.6 (1916. 6) ,p.770(28)- 797(55)
JaLC DOI	10.14991/001.19160601-0028
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19160601-0028

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

地方經濟振興策

堀切善兵衛

一

歐洲戰爭の發生後約一箇年間は中央と地方とを問はず、將た何種の職業たると階級たるとを論せず、一般に戰爭の影響を受けて甚しく困難を感じたりき。然るに豫想外に多大なる軍需品の注文到來するあり、同時に海運業は未曾有の隆昌を來するに至りしがば一部實業家の間に於ては早くも禍轉じて却て福となりたる觀あり、今や彼等は歐洲戰爭の一日にても長が引かんことを希望しつゝあるものゝ如し、而して我經濟界全局の上より判斷を下すも歐洲戰爭の繼續は內地工業の振興を促す機會となりしのみならず、正貨激增、對外債務減少等の好結果を見る可きが故必ずしも憂となすに足らず。然れども國民經濟の理想としては徒らに國富の增加を以て滿足す可きに非らず、此增加したる國富が公平に各地方及び各階級の間に分配せられて爲めに各人共に其生活程度を向上するに非ざれば國富の增加必ずしも喜ぶに足らざるを知らざる可らず。果して然らば今回の戰爭に隨伴して生じたる我國富の增加は公平に社會の各方面に分配せられつゝ有りやと云ふに今日に至るまで毫も然るが如き樣子なく、海運業者、鑛山主、金屬業者、化學工業者及び軍需品供給者等は莫大の利益を收めたるに拘らず之等以外の者は殆んど何等の餘惠に浴せざるものゝ如し。又都會地に於ける大富豪の輩は戰爭突發後頓に下落を來したる株式を買收し、若くは一時資金の窮乏を告げ經營に困難を來したる其事業を引き受けたりしに間もなく經濟界の復活するに連れて多大の利益を見るに至りたる實例所在少なからざる其一面に、地方農民の如きは敢て何等の利益に浴せざりしのみならず、却て米價下落の爲めに非常の困難を感じつゝあるものゝ如し。

吾人は近年に於ける米價下落を以て歐洲戰爭に伴ひたる必然的結果なりと見做さず、又地方農村の衰頽は獨り米價下落の爲めなりと論斷せず、地方農村の困憊

は其由來する所極めて遠く且つ種々の原因此處に存するを知るものなれども然も近年に至りて此傾向特に著しきもの有るを認めざる能はざるなり、況んや社會の一部には、戰爭の影響を受けて非常の富を作りたるもの、少なからず、都會の商工者中には久しからずして我經濟界に恰も日露戰爭終結後の如き一大ブームの來る事有る可きを豫想するものあり、戰爭を以て黃金の神の活躍なるが如くに見做しつゝある其一方に地方民の生活難を訴ふるもの日に益々多く、農村の振興と其窮民の救濟とは如何にす可きやの問題は漸く世間識者の注意を惹起するに至りたるは爭ふ可らざる事實なり。吾人は先き頃九州各地を巡遊したりしが至る所此問題は地方人士の念頭に纏綿せるを發見し寧ろ意外の感無き能はざりき。蓋し農村の疲弊困憊を訴ふるの聲は從來主として東北、北越地方に限られたる感ありしに今や我國に於て農業地として尤も有利なる可き九州に於てさへ、至る所此聲を聞くに至りては全國の農村は又同一況遇の下に在るものなりと推斷して何等差支ある可しと思はれず。されば吾人は地方農村振興の問題は實に我國現下に於ける最重要にして亦最も緊急を要す可き問題なりと斷言して憚らざるもの也。

淺薄なる一部の論者は漫然商工立國を唱へ、製造工業にして目覺しき發達を遂げんか地方農村の如き如何に衰頽を極むと雖も國家の大局より打算して敢て意とするに足らずとの意見を有するもの〻如し。然も國內人口の七割を占むる農民の繁榮を計らずして獨り製造工業の隆昌を希ふが如きは思はざるの甚しきものなりと云はざるを得ず、往昔製造工業家は勞働者の利害休戚を顧慮せずして獨り製造工業の繁昌を計らんと欲し、爲めに勞銀の如き務めて之を低きに置くを以て主眼となしたる時代ありき。蓋し勞銀の低廉なるは夫れだけ生產費の低廉なる證據なれば製造工業家の利益を計らんと欲せば勞銀の騰貴を抑制せざる可らずと信じたるなりき、斯くてコブデンを首領となしランカシア、ヨークシア等の人士に依りて組織せられし彼の穀物條令廢止同盟會さへ穀物條令の廢止は勞銀を低下せしむるものなるが故極力其廢止運動に從事したれ、一方に十時間勞働問題の唱へらるゝや、こは勞銀騰貴の傾向を伴ふものなりとして頑强に反對したりし也、然も勞銀の騰貴は一面に於て製造工業品に對する國民多數の需要を增加せしむるものに外ならず、殊に近世の製造工業は貴族富豪等少數者の需要を目的として其

事業を經營するは寧ろ稀れにして多くの場合に於て國民大多數の必需品、日用品等の生産を目的とするものなるが故に勞銀者の勞銀低廉なるは結局其事業に對する需要を減縮し、其發展を沮害するものなりと認められ、今日の經濟學者は勞銀の低廉なる事實を以て國家の慶事と心得るが如き者有る事なし。こは經濟思想の發達せる其結果にして吾人の大に喜ぶ所なれども然も數十年の昔に於て製造工業家が其勞働者に對したると殆んど同一の態度を以て今日農民に臨んとしつゝあるは寧ろ一種の奇觀なりと云ふを妨げざる可し。即ち彼等は農産物は勞働者の必需品なるが故其價が廉なればなるだけ生産原費を少なからしむるを得る次第なれば米價の如き何程下落すと雖も決して意に介するに足らず、而して之れが爲めに農村疲弊し、地方民の逃亡を見ること有りとも致方なき次第なりと結論し全國人口の七割を占むる多數國民の需要の增減は彼等少しも介意せざるものゝ如し、斯の如くにして獨り製造工業の繁盛を希圖せんと欲す、誤れるの甚しきものと評せざるを得ず。

況んや戰時關係の外國貿易に從事する其者のみ多大の利益を收め、國富の增加は國民全體に分散せられずして一部少數者の間に集積せんとする傾向あるに於てをや、吾人は地方農村振興の問題たるや決して一部農民の利害休戚にのみ關係する問題に非らず、一般商工業の根蔕ある發達を期する上より云ふも將た國富の分配を各地と各階級との間に於て務めて公平を得せしめて以て社會の健全なる發展を期する目的の上より云ふも今日の我國に取りて實に緊要の問題たる事を信じて疑はざる也。

二

地方經濟振興の爲めに取る可き手段を別つて吾人は消極的手段及び積極的手段の二と爲さんと欲す、而して其消極的手段として吾人は地方農村の負擔を輕減するの必要を唱道するものなり、凡そ負擔は能力に比例して之を課するを原則と爲すは云ふ迄もなき所なるが現在我國の租稅制度は果して國民各階級の能力に比例すと云ふを得るや、之れ吾人の大に疑なき能はざる所なり。否な今日の實際は負擔能力の比較的多き者に對して寛にして其能力少なきものに對し甚だ過大なる嫌なきに非らず。又同一性質の租稅たるに拘らず或物に於ては一定以下の少額

を免稅するの方針を取るに拘らず或ものに對しては毫も此免除を爲さゞるが如きものあり、例へば營業稅の場合には資本金一千圓以下賣上金額二千圓以下を免除したるに拘らず地租に對しては何等斯の如き規定なきは同一性質の收益稅に對し其取扱を異にせるものなりと云はざるを得ず。

且つ近年商工業の漸次發達すると共に都會住民の租稅負擔力は年一年增加しつゝ有るは爭なき事實なるも地方農民の負擔力は之と同一比例に於て增加しつゝ有りと認むるを得ず、殊に將來に於ては都會に在る商工業者の資力は益々增加す可きが故其負擔力も愈々伸暢す可きこと疑を容れずと雖も地方農民は疲弊漸く甚しく地方に由りては絕對的に其資力を減殺せらるゝもの無きに非らざるが故將來に於ける其負擔能力は極めて局限せらるゝものと斷せざるを得ず、從て將來の我租稅制度は負擔の力少なきものに輕減して其力多きものに之を移すの方針に出でざる可らず。而して吾人の理想より云ひば地租は營業稅と共に國稅より除外して地方稅に移すこと獨逸の制度の如くせんことを欲する次第なれども然も斯の如きは現在の財政狀態に於て容易に行はる可らざるが故に寧ろ他の方面に於て地方自治體の負擔の輕減を計るの得策なるを感ずるものなり。蓋し吾人の目的とする所は負擔の力少なき者に對し之を輕減せんとするに在るが故其方法の如きは必ずしも地租の輕減若くは其少額免除を必要とせず他に同一目的を達するの便宜なる方法有りとすれば之を以て彼れに代ふに何等差支なしと信ずるものなり。

地租輕減と同一目的を達す可き他の方法とは何ぞや、義務敎育費の一部國庫支辨を以て之なりと答へざるを得ず。こは歐米先進國の悉く實行する所にして今日我國の地方町村に於て經費の最も重要なる部分を占むるは云ふまでもなく敎育費にして、山村水郭茅舍弊屋の間に廣壯なる建築物の存するは常に必ず小學校なり、而して地方町村經常臨時の總支出中三割乃至八割までは敎育費に充當せらるゝ有樣にして地方町村經濟の困難は主として此敎育費の負擔に在りと云ふも過言に非らざるなり、然も義務敎育の事たる今日の文明社會に於て一日も忽にす可らざる所にして維新以來我國が一躍世界の一等國の列に入るを得たるは全く敎育制度普及の賜なりと云ふを得可し、從て義務敎育の如き如何に其費用大なれば

とて國家は飽くまで之を遂行せざるを得ず、但し此義務教育費の全部を地方町村に於て自ら負擔せざる可らざるものなりや、將た國庫は其一部又は全部を負擔するの義務ありやの問題は自ら別箇の問題にして吾人は已に政府が全國を通じて都鄙の別なく又地方に由り富の程度に差異あるを論せず、總て平等劃一的に兒童の年齢を標準として義務教育制度を設けたる以上は國庫に於て其費用の一部を負擔するは當然なりと信ずるものなり。殊に教育費中の教員俸給の如きは之を國庫支辨と爲すは教育の目的を達する上より云ふも極めて適當なりと信ずるもの也。何となれば地方の小都會又は村落等に於て教育費が非常の負擔たる其間は教職員の如き常に其地位を町村役員若くは有力者等の爲めに脅さるゝの常にして爲めに教育上甚だ面白からざる結果を生ずるのみならず時としては風教上の問題をさへ發生せしむる事又無きに非らざるを以てなり。

故に少なくとも地方町村教育費中の教員俸給を國庫支辨に移すが如きは國家に於て義務教育制度を設けたる其旨意に叶ふのみならず一面には地方自治體に餘裕を生ぜしめ其負擔を輕減するに於て著しき效果あるを信ずるものなり。

但し一面に於て斯の如く地方町村の負擔を輕減するは可なれども之に要する國庫の費用は何處にか財源を見出さゞる可らず。されば結局右手を以て之を與へ左手を以て再び之を取るの結果を來すこと無きかを危むものあらん。吾人も亦新たに之を取る其方法當を得ざらんか地方町村は何等得る所無きに終らん事を恐るゝものなり。然れども政府にして新財源を見出す際に少しの考慮を運さんか地方在住民の如き殆んど何等新たなる負擔を感ずる事なくして獨り負擔輕減の恩澤に浴し得可しと信ず、例へば郵便切手及端書の値上げの如き之を現在代價の二倍に上すと雖も國民に取りて格別の苦痛なりと云ふ可らず、殊に地方農民及び一般小民の如きは之を利用する機會極めて稀なるを以て此種の値上げは何等の苦痛なりと見る可らず、又酒及び飲料品の增稅及び新課稅、煙草專賣價格の値上げ關稅の增徵、土地差增稅、戰時利得稅の新設等も地方小民に影響を及す事極めて少なくして多くは都會人士若くは中流以上の一般國民に依りて負擔せらるが故此種の增稅若くは新稅を起して教育費の一部を國庫の負擔に移すに於ては地方民の失ふ所頗る小にして其得る所極めて多大なるべきは疑問の餘地なき所なる可し

而して吾人は此種の課税に由りて國庫に約三三千萬圓の收入を得るは易々たる可しと信ずるものなり。

三

吾人は現在の日本國民が悉く重税の負擔に吟呻しつゝ有るものなりとは信ずるを得ず、即ち前段例示せる諸税の如きは尚ほ充分增徵の餘地あるを認むるものなり、唯我國現在の租税制度は極めて亂雜不秩序にして負擔能力ある者を免じ其能力無きものに多大の負擔を課して顧みざるが爲め意外に其苦痛を訴ふの聲大なる所以也。恰も牛馬を使用する者が適當の場所に荷を積む事を爲さずして頸に結び尾に附するが如き方法に出づるが爲め徒らに不平の聲のみ高まる也。今日尤も負擔能力の薄弱なる地方農民及び小民の負擔を他に移すが如きは實に牛馬の尾に結び付けたる重荷を解きて之を其背に移すが如き類のみ、

而して地方農民の如き其負擔さへ輕減せられなば米價下落の如き必ずしも多大なる苦痛の種たらざる可し。何となれば米價下落すと雖も尚ほ之を作りて相當の利を得るに可能なる以上は農民の困難を來す理由なければなり、然るに一方に於ては非常の高利を支拂ひて必要なる其資本を調達せざる可らざると同時に地租及戸數割等に於て多大の負擔を賦課せられつゝあるを以て結局彼等の生産費は勞力以外の方面に於て非常の高價に上らざるを得ず、然るに斯くも高價を以て生産したる其米穀が極めて廉價なるに於ては如何にしても農家の經濟は成立する能はざる所以なり、其結果逐年地方農村の疲弊困憊を來し自作小農は其地位を保持する能はずして傳來の所有地を富豪に渡して其小作人となり、或は一家離散して鄕里を逃亡するに至らざるを得ず、斯の如きは年々其傾向著しき所にして爲めに中産階級は衰亡し上下兩階級のみ社會に增加するに至らんとす。若し夫れ我國にして十九世紀の中葉に於ける英國の如く製造工業の進歩宇内に冠絶するものあり、此方面に於ける國富の增加計り知る可らざるもの有ると同時に海外に於て數多き植民地を有し本國の農民が容易に此處に移住して短日月の間に幸福なる新生活を送るに可能なるが如き事情の下に在らんか國内農村の疲弊の如き敢て意とするに足らざる所なれども然も今日の我國は當時の英國とは頗る其事情を異にするもの有るを知らざる可らず、從て農村の衰頽を袖手傍觀するが如きは

今日の國狀に於て思はざるの甚だしきものと云ふべきなり。

然りと雖も吾人は一部論者の如く米價の引き上げを以て農村振興の爲めに最善の策なりと思惟するものに非らず。農民をして米を作りて所謂 Worth while なる程度に米價を置くは必要なりと信ずる次第なれども然も米穀も亦一般貨物と同樣國民經濟の發達と共に漸次其價の下落するに至らんことは極めて望ましき所なりと云はざるを得ず、而して其下落たるや生產技術の改良、機械の利用、智識の進步、利子の降下等の結果自然に農產物の代價を下落せしむるに至りたる場合には社會一般に其利益に浴すると同時に農民彼等自らも其收益を增加するを得ずが故此種の方面より生ずる米價の下落は尤も喜ぶ可き現象なりと云ふを妨げざる可し。故に强て人爲的に米價の釣り上げを試むるが如きは決して策の得たるものと云ふを得ず。要は一般國民をして出來得るだけ低廉なる米穀を消費するを得せしむると同時に農民をして低廉なる米價に拘らず相當の利益を擧げしむるを以て根本政策と爲さゞる可らざる也。果して然らば今日農村の困難を救濟せんとするに當りても亦此根本策を亂る可らざるは云ふまでも無き所にして之れ吾人の米價調節手段の如きを以て農村振興の爲めの最善の策に非らずと斷言する所以なり。

換言すれば農產物の生產費を低廉ならしめ、以て農民をして低廉なる產物を供給するも敢て損失なからしめんことを期せざる可らず。而して農民の生產費を低下せしむる上に於て最も有效なるは其負擔を輕減するに如くものなき也。此負擔たるや別れて二となすを得可し。即ち吾人が前段論述したるが如き國家に對する農民の負擔其物と資本の利子に對する農民の負擔と之なり。前者は今日に在りて決して輕しと爲さず、故に其輕減の必要は吾人の已に論述したる所なれども然も後者に至りては更らに一層其甚しきものあるや疑を容れざる也。

四

農村振興の最も有力なる他の一手段として吾人は金融的方面に着眼せざるを得ざるなり、現今我國の金融機關は頗る發達し來りたるが如しと雖も然も其多くは商業的金融機關にして地方農村の爲めに資金融通の任に當る可きものは勸業銀行、農工銀行等之なきに非らずと雖も其總資本の上より云ふも將た其活動の範圍

より之を云ふも甚だ不充分なりと云はざるを得ず、而して地方に在る普通銀行中には不動産を抵當に貸附を爲すもの實際に少なからずと雖も是等の小銀行と中央大銀行との間には金利の上に非常の懸隔を現はし居るの常なるを以て中産以上の農家と雖も豫想外の高利を支拂ふに非らざれば容易に資本調達の途なき有樣なり、增して中産以下の農家に在りては是等の金融機關を通じ資本の借入れを爲すこと絶對に不可能なりと云ふも過言に非らずして、多くは私人の手より之を借り受け然も一割以上二割の高利を支拂ふの常なり、されば是等資本の供給を受けたるものは期限到來するも之を返濟するに由なく、農家の負債が今日如何に多額に達するや將た其利拂の爲めに如何に農家が困難を感じつゝ有りやは今日少しく農村問題の研究に從事する者何人も敢て喫驚せざるはなき也、而して政府は從來低利資金と稱し預金部の中より年々若干の資金を割きて之を地方に貸附くるの習ひなりしが然もそは需要の大なるに比し九牛の一毛にだも足らず、却て政府が郵便貯金の形式を以て全國各地より蒐集する金額は地方の資金を中央に吸收し去るのみならず、民間の保險會社の如きも毎年巨額の保險掛け金を募集して之を中央に吸收し、會社が放資するに當りては常に政府の公債市價若くは都會地に於ける大企業等を選ぶが爲め之れ亦地方の資金を枯渴せしむる作用決して少しと爲さず。又中央に於ける大銀行の如きも全國各地に支店を有して盛に預金を吸收するに拘らず之を貸附くる場合に於ては專ら東京大阪等の取引所に於て賣買せらるゝ株式をのみを擔保となし地方事業の如きは如何に確實且つ有望なりと雖も全然之を顧みざるの有樣なるが故一度び之等の銀行に預け入れたる其預金は殆んど凡て地方を離れて中央に集中するものなりと云ふを得可し、斯の如くにして地方に資金の缺乏を來ざらんと欲するも能はざるや明白なりと云ふ可し。既に資本缺乏す從て其金利も中央に比して非常に高きに在るや言を俟たざる所にして今日我國の地方銀行の如きは高利貸の變形と認めざる可らざるもの極めて多し。況んや地方に於ける私人金貸業者の金利に於てをや、是等の輩より資金の融通を受くる場合に當り一割以下の利子は絶對に之れなしと稱して可なり、然も農業關係の事業にして一割以上の利益を生ずるが如きは極めて稀なるが故其資金の融通を受けたる者は容易に返濟の見込みなく遂に其抵當物を債主に引渡

すの止むを得ざるに至るの常なり、是れ近年全國各地に於て自作小農の倒産するもの極めて多き理由にして彼等は大農の爲めに兼併せられ自ら其小作人たらざる可らざるに至る也現に全國各地に於て毎四年の衆議院議員の選擧に際し郡部に於ける有權者數の減少するもの少なからざるは是等自作小農の倒産を證明するものに外ならずと云ふ可し。

故に農民の負擔を輕減せんと欲せば先以て農業資本の供給を豐かにして其金利を低下せしむるより急なるはなき也。然も此目的を達せんが爲めには或程度まで政府の政策を必要とするは云ふまでも無き所にして此點に關し吾人は特に日本銀行及勸業銀行の活動を期待せざるを得ず。

日本銀行は元と國民的銀行たる可き筈のものにして一部國民の機關として廿んず可きものに非らず、然るに今日に至る迄日本銀行は地方金融とは殆んど沒交渉の有樣にして近年僅かに勸業銀行の債券を以て其見返り品中に加入せしめたるが如き地方農業關係の方面に其考慮を致したる一新例と見る可きのみ、吾人は將來日本銀行をして地方金融に關し殊に農民及び農産物に對し直接及び間接に一層其力を盡さしむるの必要を認むるものなり、而して其手段方法の如き吾人に其案無きに非ずと雖も今茲に之を贅せず、勸業銀行の活動に關し亦意見なきに非ずと雖も之亦他日の機會を俟つて評論せんと欲するものなり。

農村金融問題に關しで更らに吾人の注意を要す可きは貸方の方面に對して刷新を加ふ可きもの少なからざるを認むると同時に借方に於ても同じく改善を要し其組織を整ふるの必要ある事之なり、例へば近年地方は産業組合頓に勃興するに至り中産以下の小農と雖も此組織を通じて農工銀行より資金の融通を仰ぐ事を得るに至りたるのみならず、二十人以上團結する場合には同じく農工銀行は之に對し資金を融通する事となりたるが故之が爲め多大の便宜を得るに至りたるや言る俟たざる所なり。然れども農工銀行若くは勸業銀行等の融通を爲す場合には一般に抵當不動産に對し五六割見當の貸附を爲すに止るに拘らず、私人の金貸業者は八割乃至九割方まで融通するの常なり、蓋し金貸業者は萬一債務不履行の場合に處し其抵當地所を自己の所有に移し自ら之を經營せんとするもの多きに拘らず、銀行は之を所有し經營すること困難なるが爲め債務不履行の危險を慮り

て其貸出金額を制限する次第なり。其結果農民は金利の高きを厭はず、又他日の危險を慮らずして唯借入れ金額の多きを望み私人金貸業者より借入れを爲すもの少なからざる所以なり。

されば其間に處して銀行側と農民との双方に於て尙ほ一段の接近を必要とす可し、即ち農民側に於ては眼前の急に迫られて他日の不利益を等閑に附するが如き事を愼み銀行側は更らに進んで私人金融業者と大差なき程度に資金の融通を爲すに努めんことを希望せざるを得ず、即ち吾人は一方に於て農業者自身の自覺を促すと同時に銀行業者に對し一段の奮發を要望せざるを得ざるなり。

最近に至り中央に於ける金融の意外に緩漫にして金利の低下したる其結果中央大銀行の多くは地方に於ける其支店に命じて務めて貸出しに應ぜしめ殊に農業資金の調達にも應ずるもの漸く增加せる傾向ありと傳へらる、然れども是等普通銀行の貸出たる其性質上總て短期にして農事の改良其他永續的事業に向つて貸出したるものに非らず、故に眞の農業資金と目す可きや否や頗る疑はしく。且つ中央に事業勃興し資金の需要增加すると共に忽ち回收せらる可きこと敢て想像するに難からず。故に斯の如きは深く喜ぶに足らざるは勿論なりと雖も然も中央に資金の增加したる其結果は自然地方にも其用途を見出すに至る可く、之を彼の財政上の緊縮主義に因へられ地方は愚か中央に於てさへ必要なる資本の供給を殊更らに不足せしめんとするの愚策に比して優ること今更ら議論の餘地なき所なりとす。

五

我國の農業は收約的小農組織なるを以て資本の如き多く之を要せざるの觀あり然り大農組織の下に必要なる機械其他の大道具は之を要すること甚だ少なし、然れども農民が次期の收穫期に至るまでの間彼等の生活を支持する爲めの生活資料其物は一日も之れを缺く可らざるや論を俟たず、而して我國農民の多くは次期の收穫期に至るまでの間此等の生活資料の準備なきの常なるが故此種の資本は彼等に取りて何物よりも必要なりと云はざるを得ず、又養蠶其他の副業を營むに當りても之に要する一應の準備を整へざる可らず、其他種子、代肥料代の如き皆農民に取りて必要缺く可らざる資本たるや云ふまでもなし、吾人が農民に對し金融

上の利便を與へざる可らずと云ふは畢竟此種の資本をば出來得る限り廉價に供給す可しと云ふものに外ならず。然れども此意味以外に於て尙ほ農民は交換の媒介物たる金錢其物に對する必要を感ずるものたることを記憶せざる可らず、而してこは商工業の之れを必要とする其程度に比較すれば極めて少なりとは雖も或程度まで農民と雖も金錢其物を必要とするは明白にして例へば租稅、生活資料以外の必需品購買、利子拂等の爲めに非常に通貨の必要を感ずること少なからず、斯の如き場合に於て日頃何等の餘裕を有せざる彼等は其生產物の價格如何を問ふの暇なく之を賣却して通貨に代へざる可らざることあり、而して之が爲め愈々其困難を加重するもの無しとせず、即ち米價下落の如き一面に於ては自己の產出に係る米穀其物よりも金錢の必要大なるが爲め價の低廉なるに拘らず尙ほ之を賣却せざるを得ざる其爲めに愈々益々市價を下落せしむるの常なり、即ち吾人は二重の意味に於て地方農民の爲めに資金の供給を豐かにするの必要を認むる次第なり。

然りと雖も地方に對し資金の供給を豐かならしめんが爲めには獨り銀行にのみ其活動を期待するも充分なりと云ふ可らず、吾人は國家の經濟政策上亦此處に注意を厚ふするの必要を認むるものなり、何となれば今日我政府の歲出は每年五六億圓の間に在りて此歲出は如何に消費せらるやは全國に於ける資金の分配上に極めて重大なる結果を有すればなり。即ち政府が其歲入を徵收する場合に於ては全國至る所より之を蒐集するに拘らず、之を歲出として散布するに當り主として陸海軍事費等に充當せんか地方に分散せらるゝこと殆んど皆無にして多くは中央又は大都會に於て消費せらるゝの結果を見る可し、此關係より云ひば未開地の鐵道建設の爲めに政府が國費を支出するが如きは地方に向ひ資金を散ずる爲めに尤も適當なる方法なりと云ふを得可し、而して我鐵道政策としては從來每年約五千萬圓を支出して新線路の延長と既設線の改良とに充當し來りたりしが現政府に至りて所謂消極方針を採用し鐵道資金の如き頗る之を削減したるのみならず近頃廣軌改築を目的となして其實行を期しつゝ有りとの事なれば勢ひ新線路の建設は之を見合せて東京馬關間を廣軌に改築せんと務むることならん、其結果は東京馬關間に多額の資金を散布するの結果を見る可しと雖も全國各地に資

金を散布す可しとの吾人の主義より云へば甚だ遺憾なりとせざるを得ず、斯の如きは唯其一例に過ぎずして此他彼の郵便貯金の如き若くは政府が新たに實施せんとする簡易保險の掛金の如き吾人は須く其大部分を再び全國に分散するの方針を取り以て務めて地方資金の枯渴を避けざる可らずと信ずるものなり。

六

次に吾人は社會制度の上より各種の中央集中的傾向を抑制するは地方經濟振興の一手段なりと信ず、一例を擧ぐれば彼の赤十字社の如き毎年其總會を中央に開催し、全國より數千の會員を參列せしむるの例なれども獨り東京と限らず地方各地に開催する事とせんか確かに物質的に其開催地を潤すものある可きや必せり、即ち平素の掛金が中央に集中するは止むを得ざるとするも總會の度毎に列席者の消費する其資金が地方を去りて中央に吸收せらるゝを防遏するに足る可き也、又高等教育機關の如きも近年地方に大學の新設之れなきに非ずと雖も然も獨米諸國に比すれば我國に在りては甚だしく中央にのみ集中したる觀なきに非らず而して斯の如きは物質的方面に於て地方の損失に歸すること多大なるのみならず、精神的方面に於ても亦極めて重大なる結果を來しつゝ有ることを忘る可らず、即ち社會上及び經濟上の進歩發達の根源たる智識階級の都會集中を現出し引きて益々地方の衰頽を甚だしからしむる傾向あるや疑ふ可らざるなり。

獨逸の如き聯邦組織の國柄だけに各州の中心都市は嚴然として今尙ほ其政治上社會上及經濟上の中軸を爲し伯林、ハムバーク等の大都會一方に存在するに拘らず能く其地位を失墜するに至らず、之れ各聯邦互に地方的勢力を維持せんと務むる其爲めにして所謂ハイマート・シッツとして諸種の計畫施設を爲し國民をして其鄕土に愛着するの念を養はしめんとするが如き方法も獨逸に於て殊に其盛なるを見る、又彼の米國の如き建國の當初よりハミルトン氏の熱心なる中央集權主義に對抗してゼイフハーソン氏の地方分權を以て理想とするもの有り、恰も遠心力と求心力とが兩々相俟つて宇宙間の秩序を保つが如く中央と地方と都會と村落とが併進調和するを得たる次第なれども我國に於ては維新の改革以來中央集權の傾向のみ獨り其勢力を逞ふして一方に之を控制する勢力毫も存在せざりしが故智力と財力とは逐年地方より中央に吸收せられ今尙ほ滔々として停止す

る所を知らず。斯の如くにして地方の衰頽し農村の疲弊を來すは元より當然なりと云はざるをず。故に根本的に地方經濟の振興を策せんと欲せば凡百の社會制度をして獨り中央にのみ其根據を置くの風習を改むるを以て急務なりと認めざるを得ず。

然りと雖も吾人は社會制度の上に於ける中央萬能主義に反對して地方に其注意を厚ふするの必要を唱導すればとて決して世の青年をして山間僻遠の地に蹟蹟せしめんと欲するものに非らず、否斯の如くむば獨り國家の進運を沮害するに至るのみならず結局地方經濟其物の爲めにも却て不利益なる結果を生ず可きを疑はず、吾人の主張する所は政府若くは公共的團體に於て事業の計畫を爲すに當り、但しは其事業經營の上に於て、地方を閑却して中央にのみ智力と財力とを集中せしめんとするに反對するに過ぎずして地方在住の青年の如き滿腔の野心を胞き、其鄕土以外に踏み出して新天地を開拓せんとするに對しては寧ろ之を奬勵せざる可らずと信ず。殊に海外移住民の奬勵の如きは亦有力なる農村救濟の一手段たるを失はざるなり、大藏省の調査に由れば歐洲戰爭の開始前に於て本邦人海外事業利益として貿易表以外に正貨の流入するもの四千萬圓を計上したり、而して其多くは移民の送金に係るものなりとの事なれば平年に於て我移民は約三千五百萬圓の送金を爲すものと見て可なり、而して之等の送金は少額づゝ全國至る所に向ひ流入する次第なれば政府若くは大會社等の外資を輸入せる場合と全く其趣きを異にし地方經濟上に極めて良好なる結果を生ずるは疑を容れざる所なり、曾て伊太利政府に於て移民の同國に及したる好結果を報告して「勞働に對する需要と供給とは平均せられ、無職業者は減少し、勞銀は騰貴し、小作契約は小作人に有利に改善せられ、地價は上騰し、小都會及び村落は海外よりの送金に依りて景氣立ち、冬の寒さは緩和せられ、同時に一般に經濟上の智識進歩し企業心勃興し、商工業の繁盛を促すに至りたり」と稱したるもの移民の地方經濟振興の爲め如何に有效なりやを說明して餘り有りと云ふ可きなり。

さりながら勞働は最も移動し難き貨物なりと稱せられたるが如く、或意味より云ひば地方農民の多數を他に移動せしむること決して容易ならず、殊に海外に移住せしめんとするに於ては多大の困難を伴はざるを得ず、而して移民會社の現に

存在するもの少なからずと雖も移住先に於ける職業及び生活狀態の調査、移民會社との契約關係等に於て國家の注意を拂ふ可き點決して少なしとせず、殊に移民は植民と異り外國の領土内に移住せんと欲する次第なれば之を歡迎するや將た排斥するやは一に相手國の自由意思に依つて定まるものなり、されば政府が外交上に移民の進路を開拓するは尤も肝要にして、就中フヒリッピン、佛領印度、蘭領印度等歐洲各國の極東若くは其の附近に於ける領土に對しては我移民を排斥するが如きこと絶對に無からしめんことを期せざる可らず。吾人は歐米諸國が極東に於て植民地保護國等を領有するに對して反對するものに非らず、然れども是等の場所に於て我人民と我貨物とを排斥し若くは差別的取扱ひを爲さんと欲するもの有る場合には極力之に反對するの當然なるを感ずるものなり。然も我外務當局者は今回の好機會に於てさへ佛蘭米の諸國をして是等の根本主義を是認せしむることを敢てせざるは非常の怠慢なりと評せざるを得ざるなり。吾人は伊太利政府の移民調査報告中に於て「冬の寒さを緩和したり」と有るを見て思はず快哉を叫ぶものあり、今日我國農村の疲弊困憊を極むる事尤も甚しき東北、北越地方に在りて寒氣亦最も凜烈なるは一面に於て之れ貧の寒さたるや疑を容れず、果して然らば伊太利の先蹤に從つて亦其寒さを緩和するを得るは明白なりと云ふ可し。

吾人は地方經濟の振興と農村の救濟とを以て現下の急務と感じ其手段として一面に於て負擔を輕減すると同時に金融及び經濟政策上適當の手段を講じ、社會制度の上に刷新を加へ、兼て移民の適當なる指導を以てするに於ては其目的の大半を達すること敢て困難ならずと爲すものなり。而して地方農村の振興はやがて商工業の繁盛を促す所以に外ならざる也。